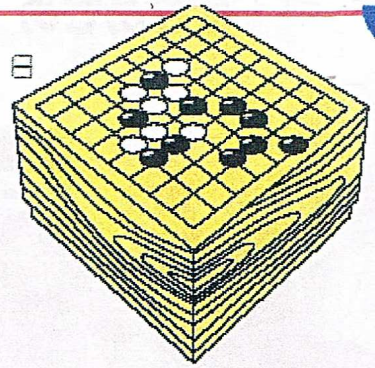


さかえの石音



本郷台からメッセージ

「脳のジョギングロードへの誘い」

会長 関口 正俊
電話 045-897-1606

小学校でも普及会教室でも 元気に新学期がスタート！

◆4月8日本郷地区センターで上達コース3教室が、また翌9日、同センターで入門・初級コース3教室がそれぞれ合同で開講式を挙行了た。「もっと強くなりたい」「碁が打てるようになりたい」出席した生徒達の抱負はいろいろだが、ヤル気十分で目が輝いていた。普及会教室は今期、豊田2教室を加えて6教室、生徒数99名となった。(各教室の活動情報は本紙3・4ページ)



▲真剣な表情で聞き入る受講生たち

◆統廃合により、新学期から区内の小学校は16から14になったが、〈はまっこスクール〉での囲碁指導は、元気な新1年生を迎えてスタート。同じくクラブ活動も早い学校では5月から始まった。

今期も前年同様、150名を超える小学生を指導することになる見込み。少しでも多くの子供達が囲碁の面白さを知って、人間的にも豊かに大きく育って欲しいものである。

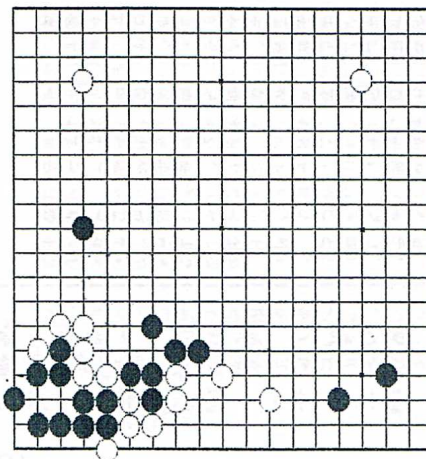
脳(前頭葉)が活性化! 今、囲碁が注目されている

「囲碁を打つと頭が良くなる」「ボケ防止には囲碁が良い」これは以前から言われてきたことである。

先日、東北大学川島隆太教授と日本棋院による『囲碁と脳に関する研究』の一環として光トポグラフィ実験がNHKテレビで放映されたが、改めて囲碁パワーのすばらしさに驚いた人も多いだろう。

実験は脳内の血流を測定し、脳神経細胞の活動状況を調べるもので、対局でも石を取りに行くとか攻める時に、脳(前頭葉)の活性化が見られたという。コンピューターでの対局では対人ほどの活性化は見られなかった。

「高齢者の認知症予防や子供達の能力を発達させるのに囲碁は使えるかもしれません。」川島教授のコメントだが、我々もさらに自信を持って囲碁普及活動を進めていけるだろう。



(1)

出題 日本棋院プロ五段 黄奕昶
白番 盤面広しといえど向かう場所
は一カ所。どう打つかを問います。
(日本棋院「週刊碁」より)

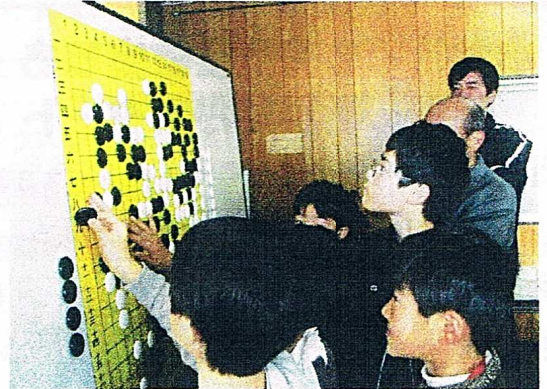
はじめての「はまっこ囲碁大会」大盛況！！

團野克宣(前/豊田小学校はまっこスクール・チーフ)



平成18年3月5日(日)栄区初の「はまっこ囲碁大会」が開かれた。当日9時、本郷地区センターに豊田小学校、西本郷小学校、公田小学校、小山台小学校から14人の少年少女が集まった。この大会を支えてくれたのは栄区囲碁普及会の指導員(立岡、中島、岩見、酒井の各先生)、子どもたちの棋力に合わせて、初級者チームは9路盤、中級者チームは19路盤を使つての連碁形式で対戦した。

一人ではあっさり打ってしまう手でも、仲間のことを考え最善手を繰り出すので、どちらも熱の入った指し手を展開した。難しい局面になると指導の先生方のアドバイスを聞きながらチーム全員であの手この手を考える場面も見られた。特に19路盤は経過をデジカメで記録していたT先生から『指し手の見事さは有段者クラス』とおほめのことばをいただいた。



▲連碁で熱戦中の中級者チーム

そもそもこの企画は、昨年10月10日、日本丸パークで開催されたイベント「だかしや楽校」(横浜市主催)に参加したことに端を発する。そこでは、市内の小中学生や一般企業、NPOなどの多数のお店が設けられていた。栄区内の小学校の「はまっこ」は合同で「大道パチリコ教室」を出店、生徒たち自身が、子どもから大人までを相手に囲碁対局やパチリコの指導をした。この盛り上がりを受け、今回の「はまっこ囲碁大会」が実現した。



▲2対2で対戦中の初級チーム

これを期に子どもたちの頭脳を活性化させる囲碁が栄区内に広がっていくことを願っている。そのためにも栄区囲碁普及会の皆さんの応援をよろしくお願いいたします。

囲碁歴史の散歩道(2)

本因坊算砂(京都寂光寺の僧侶、日海)は1559年京都に生まれ、のちに大変囲碁に精通した者として、信長、秀吉、家康に仕え、今日の囲碁界発展の礎を築いた人と言えるでしょう。信長と言え、本能寺の変の前夜、御前で打った算砂の碁に三コウが生じ(無勝負)以来三コウは、不吉と言われるようになりました。家康は算砂に碁所を与え、家元制を開設。その後、本因坊家、安

井家、林家、井上家の四大家元は、お城碁等を打ち、大名に仕え隆盛を極めました。

明治維新と共に基盤を失った家元は、井上家を除く三家が統一され、大正13年日本棋院が創立されました(関西棋院創立は昭和25年)。本因坊の名称を譲り受けた日本棋院は、昭和16年タイトル戦として本因坊戦を開設、関山利一が第1期本因坊を獲得、本因坊利仙と名乗りました。次回は木谷実、呉清源両巨星の登場です。(本小日曜教室インストラクター 松浦一)

囲碁を詠んだ
俳人たち

長き夜に 碁をつづり居る なつかしき (松尾 芭蕉)
 漬たれて 独り碁を打つ 夜寒かな (与謝 蕪村)
 碁に負けて 忍ぶ恋路や 春の雨 (正岡 子規)



若い世代に対応した指導も

本郷土曜教室(上達コース)は28名、これまでの混雑が解消され落ち着いた雰囲気スタート。

当教室では運営には当初から様々な工夫を取り入れてきたが、今期は小学生から高校生までの若い受講生のグループ(右写真)を作り、特に子供達の教育に定評のあるインストラクターを配置し、若さの特徴とも言える碁のスピード、感受性、記憶力の強化等に対応し易い体制を取ることに配慮した。

最近脳の科学の発達人間として最も大切と言

攻める碁を目指して!!

第4期は継続者7人に女性2人を加えて、9人の受講生でスタートした。

今期は「石倉流攻めとサバキの法則(NHK囲碁シリーズ)」をテキストに、攻めの5か条(①相手の根拠を奪う、②むやみにツケない、③自分の弱い石から動く、④モタレ攻め、⑤攻めながら得をする)をモットー

新教室で順調なスタート

4月8日の開校式で受講生の皆さんと初顔合わせ12日からは関口会長による「囲碁のマナーとルール」で対局時の挨拶から石の持ち方・置き方など基本をみっちり仕込まれ上、スタートしたこのコースもその後は「囲碁教室・中級編」を教材とした各講師の持ち味を生かした講義も始まり、順調な滑り出しを見

子供グループに特別指導



▲ 真剣に臨む認定会

10級の愛川さんをトップに、初めて碁石を握る人まで受講生は29名。今期の主な指導方針として①碁力別に6グループ編成。集中力に欠けた一部の子供対策として、別カリキュラムで指導。

■本郷土曜教室(上達コース)■

われる前頭葉の発達に囲碁が、大変効果があることを明らかにしてきた。若い時に「碁を知る



機会を得て本当に良かったな」と思えるようになって欲しいと願っている。(中村記)

■本郷水曜教室(上達コース)■

として進めていく事とした。

攻める碁を目指すために講座の締め括りは手筋問題を考え、読みの訓練をすることにした。

受講生が少ないので、特にグループ別けをせず、対局も出来るだけ多くの人と行い、指導碁も多く取り入れるなど工夫して、碁力アップを図っていきたくと考えている。(杉浦記)

■豊田水曜教室(上達コース)■

せております。

受講生(9名)の碁力は仮の5級~9級まで相互にあまり差がないので、後はこれからの指導と本人の努力次第と思いますが、先発の各講座に早く追いつくよう全講師挙げて取り組むとともに、歴史ある豊田の地に新しい「さかえの石音」が響くよう力を尽くすつもりです。(山田記)

■本中日曜教室(入門・初級コース)■

対局成績も昇級に反映させる。②碁力認定テスト(月1回)、次の一手問題の宿題(毎週)の提出。成績は昇級に反映。③低正答率問題の解説とわかるまでの個別指導。④講義は多くのインストラクターが担当。これまで牧野、加藤、立岡氏が詰碁、守備力、布石、定石について講義、「分かり易かった」と受講生に大好評。

今期は全員が大きく碁力アップを果たし、多くの生徒が上達コースに進級できるように指導していきたい。(道休記)

子供達8名も元気よく

今期は13名の受講生になりました。

内訳は大人が5名、幼稚園年長1人、小学生5名、中学生が2人です。小学生向けの初級講座と少し上の棋力を対象とした講座とに分けてや



■本小日曜教室(入門・初級コース)■

っています。

子供さんは長時間やると飽きてしまうので早めに帰ってもよいことにしていますが、年長のまほろさんは少しも飽きることなく石を並べているので伸びるのじゃないかと期待しています。横谷君は相変わらず殺し屋で殺しの形に嵌まると大勝して喜んでいます。

月一回、本中日曜教室の生徒達と他流試合をやりませんが、刺激になって棋力アップに役たてばよいと考えています。(臼井記)

ゲーム感覚でスタート !!

本教室は今期より受講生11名でスタート。初めにパソコンソフトによる入門講座で囲碁の基本的な事柄を勉強した。碁のルールとマナー、石の取り方からアタリ、着手禁止点、コウ、石のつながりと切り、シチョウ、ゲタ、ウツテガエシ、追い落とし、石の死活など。わずか4回の講座で初心者がすべて理解したとは考えられないが、これからの講座に必ず生きてくるだろう。

受講生がそれぞれ例題を9路盤に並べて確かめながら勉強を進め、また問題を順番に答える(パソ

■豊田日曜教室(入門・初級コース)■

コンのマウスでクリックする)などゲーム感覚で楽しみながらできたと思う。今後は、テキストによる講座と対局指導を実施して行く予定である。(村山記)

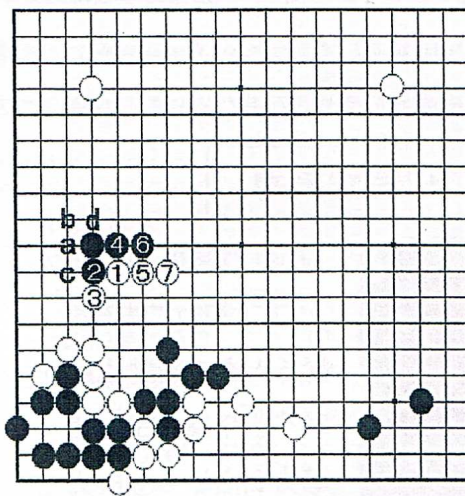


楽碁会第1回囲碁大会開く

■楽碁会(卒業生による囲碁クラブ)■

『楽碁会』が発足して半年、日頃の勉強の成果を試すべく、囲碁大会が3月11日、本郷地区センターで開かれた。

Aグループ(有段者12名)、Bグループ(1級~5級15名)、Cグループ(6級以下9名)に分かれて4回対局。1試合200点の争奪をめぐるレベルの高い熱戦を展開した。優勝者は次のとおり。A...村山喜三郎さん C...荻尾幸子さん C...成田裕基さん 第2回大会は9月に計画している。(高橋記)



正解 白1の肩ツキで進出する一手。黒2なら白3以下7まで、逃げながら下辺黒にプレッシャーをかけて、白好調の進行です。失敗 白3の間は黒5と被せられ息苦しい。続いて白a、黒b、白c、黒dで生きは得られるが、黒を厚くして大損です。

●編集後記● 栄区囲碁普及会は、新しい発信を求めています。囲碁を楽しむ高齢化社会のお年寄りや、幼少の子供達に脳の発達と活性化を促す手助けとして囲碁の良さを共有し、多くの囲碁ボランティアによる活動を進めています。新しい仲間も募集しています。新しいアイディアや情報もお寄せ下さい。

編集委員長：植田米男 連絡先?&Fax 045-892-6166
編集委員：臼井道雄 酒井巧 杉浦次利 立岡章 道休俊和 橋本侃 山田伊佐男